

2020年6月28日鶴川図書館大好き!の会 会合記録

日時：2020年6月28日 14:00～16:20

場所：鶴川市民センター 第1会議室

参加者：9名

1、6月17日市議会文教委員会報告（鈴木）

3月の文教委員会に出された請願は、さらに資料が必要と継続審議になり、当日の審議に至ったが、再度継続審議となり、9月に持ち越された。さらに署名を積み上げて行きたい。今回は、事前に各会派を回り、様々な資料を渡した。

（守谷）今回の請願は、アクションプランの見直しを求めたもので、前回継続審議になった理由は資料や説明の不備だったが、今回自民党が継続審議にと口火を切った理由は、「コロナで十分な議論ができなかったため」である。無下には不採択にできないということで、コロナを前面に出したということかもしれないので、予断を許さない。議員の中には、「これまであまり図書館のことは知らなかったが、今回のことで良い勉強になっている」と感想をくださった方もあり、私たちの活動は決して無駄ではないと実感した。

これから9月に向けて、行政側の発言に色々問題があったので、文教委員会での図書館側の発言をきちんとチェックすることが必要。M議員が、こちらが配った配布資料から岡山の図書館について、専門職による正規職員25名でやっていることに言及していた。岡山の図書館費が7億円に対し、町田市は、正規55名で費用12億円。町田でも専門職制度を再考して欲しい。

（鈴木）コロナの現状において、市の職員ならば、コロナなどの緊急時に臨機応変に対応をできたり、他の部署の応援にも行かれるけれど、指定管理の社員ではそのようなことはできない。どんどん職員を減らしていくと、わかる職員もいなくなって、必要なこともできなくなる。

（富岡）1週間前に図書館の企画・地域支援係長より電話があり、鶴川図書館について商店会と地域と話し合いを持ちたいとのこと。今は忙しいので、8月以降でお願いした。

2. 鶴川図書館の今後について、私たちは何を望むか。

市は、今年度中央図書館に企画・地域支援係を新たに作り、係長が鶴川図書館問題に対応することになった。こちらとしての対応を考えたい。

◎代替施設ではなく図書館でなくてはいけない。

◎他の図書館とネットで結ばれていること。

◎ボランティアの役割を市が要求するのはおかしい。市民から出てくるものである。

◎デジタル化していく方向については、資料費が少ない中で、まずもっと書籍を買って欲しい。

◎絵文集に書かれた子どもたちの言葉には、図書館でいろいろ教えてもらえてうれしいというのが複数ある。司書の役割は大切。

◎図書館は、自分で調べる、買わずに学べる場所で大事。

◎鶴川図書館がなくなったら子どもは自分で歩いていけない。歩いていける距離は1.2kmとされているのに町田市は1.5kmと勝手に決めている。駅前に行くにはバス代がかかる。自転車でいった子が事故に遭う危険も生じる。

- ◎同じ税金を払っていて図書館を利用できる、できないの不平等が生じるのはおかしい。
- ◎ボランティアの役割が求められているが、カウンターで近所の人に対応するのは困る。
貸出にプライバシーが守られなければならない。
- ◎図書館の根幹をしっかり位置付ける。
- ◎書誌データをきちんと作り、検索しやすくするために、80年代までは、取次ぎ店から届いたものに職員が手を加えていたが、今は買ってそのまま蔵書目録に入れており、あいまい検索の工夫や現場での管理もなく一般の人が検索しにくい。1字違うと見つからない。書誌データは国の財産であり、外国ではその国に共通の一つの書誌データが無料で図書館に配られ、本とデータがセットになっている。
- ◎国立国会図書館で作成するジャパンマークを図書館で使えるようにしたいが、現在はタイムラグがあり、図書の購入と同時に使えない。
- ◎市民側からアクションプランを提示する予定。超党派の議員との話し合いをしたい。
- ◎ネットで問題を知ってもらうのはどうか。チェンジオルグなど。
- ◎論点をネット等で拡散する場合、誰にも分かりやすい説明をする必要がある。図書館をなくさないでというのは伝わりやすいが、指定管理を導入しないでというのは説明をしないと分かってもらえない。

3. 「図書館大好き大作戦」のイベント企画について（藺田）

ゆめ基金より助成金が出るので配分について提案。

企画案

- ① おもしろ出前お話し会 柿の木文庫協力で、大蔵小、鶴川3小で学童、まちともとコラボで行う。
(大蔵小のまちともの代表者とは連絡が取れており、秋以降コロナの問題がクリアできたら、ぜひやりたいとのこと)
- ② iPad を使って絵本を作る。(紙芝居ワークショップは、社協からの経費でつるかわ図書っこ応援隊が行うことになったので計画変更)
「ピッケのつくる絵本」のアプリを使用する。iPad の有料貸し出しあり。プリンターの問題、数人は必要な担当者等今後の検討。
- ③ 「注文の多い図書館」指示書を受け取った子どもたちが図書館でレファレンスサービスを受け、関係本を探し出し、読み取った知識や感想を紹介しあう。どうモチベーションを引き出すか？応援まっつりの企画の中であれば子どもが参加しやすいか？
◎夢基金の会計担当は森さんが引き受けてくださる。

次回、また検討する。

次回の会合の日程は、中川氏とのミーティング日程により検討。